

# 大麦栽培管理情報(第3号)

令和 2年 2月  
アルプス農協管内農業技術者協議会

今冬は積雪がほとんど無く、気温も高いため、生育が早回っています。また、溝がふさがり、停滞水の見られる圃場があちこちで見受けられます。収量確保のためには、湿害を解消することが一番大事です。圃場をこまめに見回り、速やかに排水溝の手直しなどの作業を開始しましょう。

## 1 排水溝の点検・手直し

圃場内の停滞水を排除するため、排水溝の点検・手直しを行いましょ。また、排水口は深く掘り下げ、確実に溝と連結しましょ。



### <点検のポイント>

- ・水口がしっかり止まっているか？
- ・連結した排水溝に水が溜まっていないか？
- ・排水溝が埋まっていないか？
- ・掘り下げた排水口から水が抜けているか？



溝がふさがっているので、手直しする。

## 2 越冬後追肥（分施肥系の場合）

気温がかなり高く推移しているため、生育が平年よりも早回っており、追肥の時期も早回っています。

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数や穂数を確保するために重要です。天気を見て、速やかに追肥しましょ。

施用時期	肥料名	施用量
2月上旬	硫安つぶっこ	20kg/10a 以内※

※ 生育が旺盛な場合は減肥してください。

肥効調節型(基肥一発)肥料を施用した圃場は、昨年末よりも茎数が増加し、葉色が濃くなってきていることから、原則、追肥の必要はありませんが、葉色が淡い場合は営農指導員等にご相談ください。